

塾長メッセージ

住 柔
(上越高田校塾長)



前期の中間テストが終わり、早いもので、新年度が始まってから間もなく2ヶ月が過ぎようとしています。

また、運動部に所属する生徒であれば、高校総体が行われ、活発に遠征が行われる時期であり、受験生にとってはセンター試験同様のマーク模試、二次試験対策の記述模試、これらが本格的に始まる時期でもあります。

このようにさまざまな行事によって多忙になる5月から7月にかけては、受験生はもちろん、多くの学生にとって真に「文武両道」を問われる時期となります。



しかしながら、**高校3年生はセンター試験まで残り8か月を切ったので、受験対策勉強と学校生活を両立していく必要があります。**受験の天王山といわれる夏に向けて、今こそ基礎の定着、学習習慣の定着のために時間をとっていく必要があります。

1年生、2年生にとっても今の時期に学んでいることは受験に直結することがほとんどです。そのため他方で忙しいからといって受験に向けての準備を怠るわけにはいかず、勉強を含めて、生活をマネジメントしていく必要があります。

両立してもらうために、真友ゼミでは生徒一人一人に合わせた学習プランを作り、年間・月間・週間でやるべき勉強量を明確化しています。それをもとに、**自分はどの段階でどういう風になりたいのか、どの程度まで成績を上げなければいけないのか、そのために何をすべきなのか**を生徒自身に考えさせています。

また、計画をすると同時に、目標を持つということを強く指導していきます。

忙しさに流されて、形だけの学習を続けていても成績は伸びません。



「これを克服しよう。この教科の点数を伸ばそう」などの近い目標と、「新潟大学に合格するぞ」といった長期的な目標の両方を持って取り組んではじめて勉強の成果が出るのだということを一人ひとりに教えています。

忙しいという気持ちに追われてくると視野が狭くなります。中には睡眠時間を削って乗り切ろうとする生徒もいますが、こうしたやり方は長続きしません。どうしても本人だけで乗り越えることが難しい場合にはスタッフがサポートいたします。

部活に行事に勉強にと忙しく充実している日々でこそ成長でき、その経験が今後の道を切り拓く助けになると確信しています。

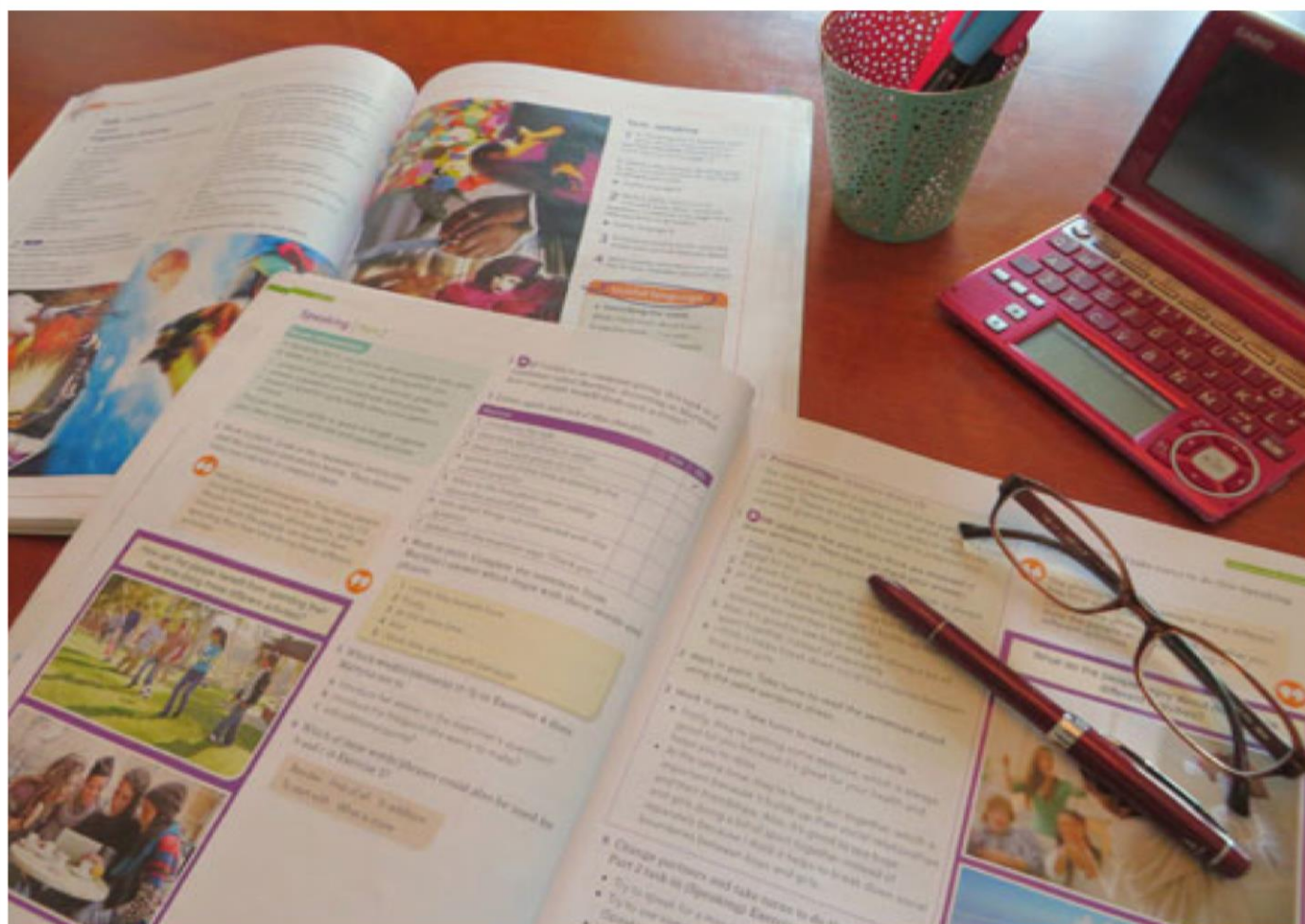
生徒が忙しい今を超えてその先にある成功に向かえるよう日々指導に当たらせていただきます。よろしくお願いします。

住 柔(上越高田校塾長)

大学入試に関するQ & A

前期の中間テストが終了し、部活や行事が終わると、いよいよお子さんが本格的な受験勉強に入っていく時期をむかえます。保護者の方も大学入試に関してお子さんと話をする機会が増えてきているかと思います。

今回のゼミつうしんでは、この時期に大学入試に関して、毎年保護者の皆様から寄せられることが多い質問をまとめてみました。



Q: 大学入試と高校入試はどう違うのでしょうか？

A: 大学入試は全国レベルでの競争になりますので、高校入試よりも数十倍難しくなります。地域最上位の高校に通っていても国立大や難関私立大に合格するのは容易ではありませんが、**地域の中堅、下位の高校からでも、早い段階からしっかり受験対策ができれば国立大や難関私立大に合格することは十分に可能です。**

Q: 最近の模試で第一志望大学の合否判定がEでした。合格の見込みはないのでしょうか？

A: 諦める必要はありません。E判定のまま受験本番に挑むことになった場合でも、合格を勝ち取ってくることは珍しくありません。むしろ現時点で、判定がAやBだったりするほうがはるかに危険です。油断してしまう恐れがあります。過去の例から見ても、**新潟大学のような中堅国公立大が第一志望でこの時期にA判定が出てしまうと、本番で失敗する場合がむしろ多い傾向がはっきり出ています。**対策としては、さらに上のレベルの大学を目指す気持ちを持つことです。



Q: 推薦入試のほうが入りやすいですね？

A: 推薦入試で入りやすい大学は一般の受験でも入りやすく、推薦入試に飛びつく必要は特にないと言えます。逆に言えば、**一般受験が難しい大学は、推薦入試も同様に難しい**。中堅以上の大学の推薦入試は学科試験も課されることが多いですし、**一般の受験でも合格できる力があってこそ推薦入試でも合格できるのだ**とお考えください。

Q: 大学は第一志望以外の大学も決めておいたほうがいいのですか？

A: はい。大学受験は非常にシビアなものです。第一志望の一枚しか想定していないと、いざセンター試験の本番でうまくいかなかった場合に、出願校の再検討をごく短期間で迫られる事態になります。そうならないためにも「**ここなら行きたい**」と思える**第二志望以下の大学を複数探しておくことが望ましい**です。

国公立大志望者は、併願先の私立大を決めておくことも非常に大切です。センターの結果によっては国公立大への出願そのものを断念せざるをえなくなる事態も想定しておかなければいけません。



Q:私立大への進学は色々な理由で難しい場合はどうすればよいでしょう？

A:それでも私立大の出願はできるだけ行なっていただきたい。国公立大一本の受験は、仮にもう一年浪人して挑むことにする場合でも、センター試験一本勝負でほぼ勝敗が決してしまうため合格できる保証がありません。さらに、国公立大に進学できなければ就職させるというのも、就職活動する時間が少なすぎて現実的ではありません。

しかし、いわゆる「BFランク大」(「ボーダーフリーランク大学」の略称)のような、受験をすれば誰でも入学できてしまうようなレベルの大学に進学する意義もありません。将来の就職のことも考えますと、それなりのレベルの私立大に進学可能にするための準備をしておく必要があります。返済不要の奨学金を出してもらえる私立大学の受験が望ましいでしょう。

一例としては、専修大学のスカラシップ入試や神奈川大学の給費生試験などが有名です。その他多数の大学で奨学金制度が用意されていますので、それらの利用をお勧めします。

東京の主要私立大学の給付制度

大学名	学部・学科名	方式・制度	特典
文教	全学部	全国入試特待生制度	入学金を除く学納金（授業料・教育充実費）全額を4年間免除（健康栄養学部は実験実習費も対象） ※入学後の学業成績が著しく不良であった場合などは資格を取り消すことがある
青山学院	全学部	地の塩、世の光奨学金（入学前予約型）	年額 50 万円を給付（原則 4 年間の継続給付、毎年の進級時に継続審査あり）
駒澤	全学部	新人の英知（入試特待生）奨学金	授業料相当額（仏教・文・経済・法・経営学部：年間 69 万円、医療健康科学部：年間 80 万円、グローバル・メディア・スタディーズ学部：年間 79 万円 ※2016 年度授業料参考）を最短修業年限（4 年間）給付
専修	全学部（一部）	進学サポート奨学生	授業料の半額相当額を4年間支給
		新入生特別奨学生	授業料（1～3 年次）の半額相当額を給付
		スカラシップ入試奨学生	授業料・施設費を4年間免除
	全学部（二部）	二部スカラシップ入試奨学生	授業料・施設費を4年間免除。 自宅外通学者には年額 30 万円を4年間支給
拓殖	全学部	特別奨学生奨学金	原則 4 年間の授業料を全額免除
		入学支援奨学金	入学年次前期授業料免除
中央	全学部	予約奨学金	授業料相当額半額を4年間給付
東洋	国際、情報連携	スカラシップ入試	学費半額免除（4 年間） ※ 2 年目以降は学業成績状況などにより継続審査あり
日本	経済	奨学金制度	第 1 種は 36 万円、第 3 種は 24 万円給付
	商	奨学金制度	年間授業料相当額を給付
	工、生物資源科学	奨学金制度	工学部は授業料相当額、生物資源科学部は授業料・施設設備資金相当額を給付
明治	全学部	特別給費奨学金	授業料相当額を給付。ただし、給付金は当該年度授業料に振り替える（4 年間）
明治学院	全学部	白金の丘奨学金	授業料から年額 40 万円を減免（原則 4 年間）※継続審査あり
立教	全学部	自由の学府奨学金	年額 50 万円（理学部は 70 万円）を給付（原則 4 年間） ※継続審査あり
		セントポール奨学金	年額 40 万円（理学部は 60 万円）を給付（原則 4 年間） ※継続審査あり
立正	全学部	キャリア育成奨学金	最大 4 年間、授業料（入学金含む）を全額免除、かつ大学内における業務体験※ 2 年次以降は前年度の GPA 評価によって免除金額が変動
		特別奨学生制度	40 万円を給付（1 年間）
神奈川	全学部	給費生試験	初年度納入金（入学金・委託徴収金を除く）を免除 入学後、文系学部（法・経済・経営・外国語・人間科学部）は年額 100 万円、理工系学部（理・工学部）は年額 130 万円を原則として 4 年間給付。自宅外通学者（自宅からの通学に片道 2 時間以上を要し、下宿等から通学する者で審査により許可された者）には年間 70 万円を原則として 4 年間給付
		入学前予約型奨学金	文系学部（法・経済・経営・外国語・人間科学部）は年額 40 万円、理工系学部（理・工学部）は年額 50 万円を原則として 4 年間給付



Q: 東京の私大定員が減らされたそうですが、どんな影響がありますか？

A: 合格倍率が上がることで入学難度が上がります。現実には今年東京の私大を受験したゼミ生の多くが苦戦しています。来年度も倍率は高止まりするはずですので東京の中堅・難関私大の受験生は厳しい戦いとなるでしょう。対応として受験校数を増やす必要があります。また、東京の私大の難化は新潟県内の成績上位者の県内国公立志向を高める方向に作用すると思われるため、新潟大学や新潟県立大学の合格難度の上昇も予想されます。しかし、この予想される変化は本番前の模試には表れにくい変化のため、模試の合格判定よりも素点が何割得点できたかのほうを重視する必要があります。



Q: 大学入試が変わるそうですが、どうすればいいのですか？

A: 今の高1生が高3生になったときの試験から新テスト「大学入学共通テスト」での受験となります。これまでのオールマーク式だった形式から記述式の問題が含まれる形式に変わります。単なる暗記では対応できない思考力を試される問題になります。英語は「読む・聞く・書く・話す」の4技能を測定するため、**現高1生は高3時の4月から12月までの間に2回民間試験を受験する必要があります。これは入試本番の早期化を意味しているため、部活との両立が困難になると予想されます。**

現高1生は高2生になったら対策勉強を始め、高3生になった時点で英語4技能試験の受験準備が出来ている状態にしておくべきです。また、**現高2生は浪人した場合に翌年新テストでの受験となるため全体が浪人回避に動き、国公立志望者全体の出願校の下方シフトが生じて、東大のような最難関大の倍率の低下と新大のような中堅大の倍率の大幅上昇が予想されます。新大志望の現高2生は最難関大を狙えるレベルまで学力を高める必要があるでしょう。**



新潟校からのお知らせ 英検対策を始めます！

保護者の方々へ

2020 年度から大学入試の英語が大きく変わります！高校の間に **4 技能(聞く・読む・話す・書く)の英語の資格検定**を受験し合格することが必要になるのです。

高校生が「**話す力**」を身につけるためには、早くから「実際に英語を使ってみる」経験が大切です！

真友ゼミ新潟校が独自に主宰する「**英検対策コース**」では、高校の英語教育の現場では対応がどうしても追いつかない英語資格検定試験対策を高校に代わって行います！

真友ゼミの「英検対策コース」の売りは、何と言ってもスタッフが「**入試のプロ**」だということ！英検対策と**同時に受験勉強**も一か所で出来るほうが絶対に便利！という高校生のニーズにパーフェクトに応えます。



・**英語 4 技能に完全対応!!**

☞合格に必要なスキルを効率よく学べる

・**少人数のグループ指導!!**

☞回数制なので日程の組合せが自由

・**定期的に無料実力テストを実施!!**

☞到達度を確認しながら合格へ導きます

英検 3 級から準 1 級まで!!*

*英検1級と他の英語民間資格試験の対応は応相談。

まずはお気楽にお電話ください！

フリーダイヤル **0120-972-992**



学びは未来のチカラになる。

真友ゼミ

担当：瀧(ハン)

LINE@ 友だち追加



新潟校からのお知らせ 無料イベントの案内

お子さんに参加するよう促していただきますようお願い申し上げます。

◎セミナー

「間違いだらけの大学・学部選び：県内外の大学・学部の正しい選び方を徹底解説！」

【実施時間】

6月17日(日)14:00～16:00

◎特別授業(全学年対象)

「3ヶ月間で化学と生物の基本を完全にマスターする！」

【実施時間】途中参加大歓迎！

5月1日(火)～7月31日(火)

火曜日 18:00～19:00

日曜日 12:00～13:00

◎暗記確認(高3生・高卒生対象)

「夏休みが終わる前に日本史と世界史の全範囲の流れと主要事項を押さえます！」

【実施時間】途中参加大歓迎！

毎週土曜日

日本史:13:30～14:30

世界史:15:00～16:00